

パリ通信・第143号

オルセー美術館「ゴッホ展」

オーヴェール・シュル・オワーズ最後の2ヶ月

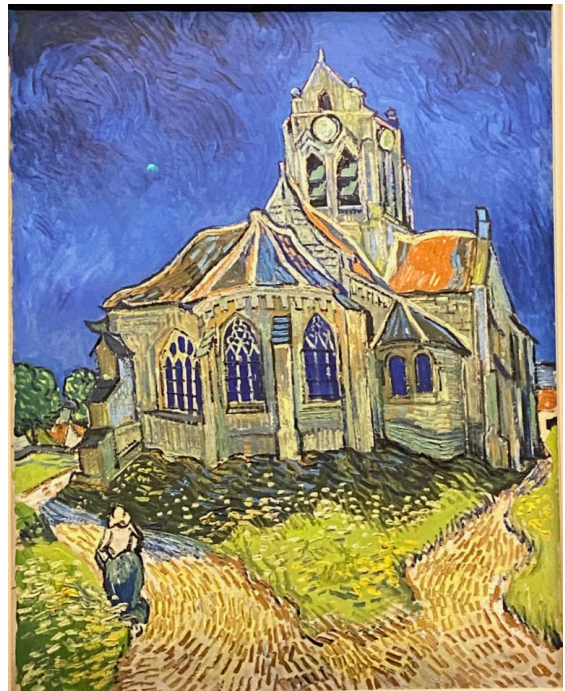
11月11日フランスは第一次世界大戦の終戦記念日である。凱旋門下の記念碑に火が灯り、130万人を超える戦死者と400万人の負傷者を悼む式典が今年も行われた。

1918年の終戦から百年以上が経つ今なお世界は戦争や紛争が絶えない。

クリスマスまで6週間だが、ユダヤ人への反発が再燃しつつあり大事なく年の瀬を迎えられたらと思う。

そして、11月はフランス中が大雨と大風の災害に遭い、パリも雨が降らない日がない。週末も雨で遠出も億劫、美術館で展覧会を見ることにした。オルセー美術館で開催中の「ゴッホ展～オーヴェール・シュル・オワーズ最後の数ヶ月」(2023年10月3日から2024年2月4日まで)へ行った。

1888年2月ゴッホ(1853-1890)はパリから南仏アルルへ移り小さな一部屋を借り、「黄色い家」や「ひまわり」など多くの傑作を描いている。ゴーギャンとエミール・ベルナールを南仏に来るように説得し、1888年10月にはアルルでゴーギャンと一緒に絵を描き、絵画論を交わした。12月末ゴーギャンとの口論の末、狂気に駆られたゴッホは自ら左耳を切り落とす。それから度々狂気の発作に襲われ、1889年5月南仏サン・レミ・ド・プロヴァンスの精神病院に入る。治療を受けながらも野外で絵を描くことを許され、発作と湧き上がる制作熱を繰り返しながら数多くの作品を描き、パリとブリュッセルのサロンにも出展する。



「オーヴェール・シュル・オワーズ教会」(1890年6月4-5日作)

1890年5月16日サン・レミ・ド・プロヴァンスの病院を出て、ピサロの紹介でオーヴェール・シュル・オワーズで開業しているポール・ガシェ精神科医の治療を受けることになる。ガシェは自身も絵を描き、絵画のコレクターでもありゴッホから贈られた作品も所有していた。5月20日オーヴェール・シュル・オワーズに到着し、7月29日ピストル自殺するまでの2ヶ月間に制作したゴッホの作品を可能な限り集めたパリ・オルセー美術館とアムステルダム・ゴッホ美術館の共同展覧会である。

ゴッホはオーヴェール・シュル・オワーズで73点の絵を描いており、この時代の作品はオルセー美術館が7点、アムステルダム・ゴッホ美術館が8点を所蔵するのみである。散逸して個人蔵となった作品、国外の美術館所蔵品を借りての貴重な展覧会で、オーヴェールのカフェの娘「アドリーヌ・ラヴー」(個人蔵)の青は美しく、ゴッホの肖像画の強さ、新しさ、大切さが分かる。

(左の写真)

今日では世界中が絶賛するゴッホであるが、生きていた間の評価は高くなく、まして精神を病んだ画家を正に理解する批評家は少なかった。画商だったゴッホの弟テオ(1857-1891)がゴッホの生活費を負担する代わりに作品の権利を有していた。弟テオとの間に交わされた652通の書簡は絵画作品に劣らず貴重なもので、今日アムステルダ



ムとパリに主要な作品が残された影にはゴッホの才能を信じて支え続けてきた弟テオ、そしてテオが兄の後を追うように半年後にこの世を去ると、兄弟の意を引き継いだゴッホの義理の妹(テオの奥さん)ヨアナ(1862-1925)の存在があったことを読むことができる。



「オーヴェール・シュル・オワーズの階段」

(1890年5月末)(セント・ルイス美術館)

ゴッホがサン・レミ・ド・プロヴァンスからオーヴェール・シュル・オワーズに移る間の数日を滞在したパリのテオのアパートマンでゴッホは初めてヨアナと顔を合わせる。生後4ヶ月の息子(ゴッホの甥、ゴッホと同じくヴァンサンと名付けられている)も一緒に、その後オーヴェールで2回会っている。

ゴッホ兄弟が亡くなり、ゴッホの作品と書簡を相続しアムステルダムに持ち帰ったヨアナは何度も何度も兄弟の書簡を読み、ゴッホの価値を信じて作品を護り、ゴッホの名を世に伝えることを使命とした。女性は軽んじられる時代であったから簡単なことではなかったが、今日こうして主要なゴッホの作品と書簡が世に残ったのはヨアナのお陰であると言っても過言ではない。

「親愛なるテオと親愛なるヨ(ヨアナ)へ。ヨに会ったからこれからはテオだけでなくヨと二人に向けて書くことにする。南仏で2年を過ごし、フランス語の方が自分の思うところを伝えることができるのでフランス語で書かせていただく。オーヴェールはとても美しい

ところだ。古い藁葺き家が点在していて珍しい。(1890年5月20日)」3回しか会ったことがなくてもゴッホの価値を信じて尽力したヨアナ、世に名を残した人の影にはその人を信じて支えた人がいると思った。「オワーズ川の辺り」(1890年6月作)(デトロイト美術館)



あとがき (小原記)

私が好きなゴッホの絵です。実際に今でもあります。このカフェテラスで食事をしました。思い出の一枚です。

